

平成 20 年 度

兵庫県公立高等学校学力検査問題

国 語

注 意

- 1 「開始」の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 「開始」の合図で、1ページから4ページまで問題が印刷されていることを確かめなさい。
- 3 解答用紙の右上の欄に受検番号を書きなさい。
- 4 答えは、すべて解答用紙の指定された解答欄に書きなさい。
- 5 問題は四題で、4ページまであります。
 - (1) 一、二、三は、共通問題です。全員が解答しなさい。
 - (2) 四は、選択問題です。A、Bから一題を選んで、解答しなさい。
その際、選択した問題の解答欄の上にある の中に、○印を付けなさい。
- 6 「終了」の合図で、すぐ鉛筆を置きなさい。
- 7 解答用紙、問題用紙とも机の上に置いて、退室しなさい。

— 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ここ数年のベストセラーリストを眺めると、自己啓発本^①がつねに上位を占めて^②いる傾向に気づく。多くの人がいまの自分に満足できず、なにかを変えたがっているようだ。スキルアップを図り、それを仕事に結びつけて出世したい。本もそのために「役立つ」なら読む。そういう気持ち^③が、リストから透けて見える。

出世を願う気持ちを否定することはできない。しかし、本一冊を讀んで、いきなり自己を変革しようというのはあまりに安易だ。そして、なにか「ためになる」ことがないと、本に手を出さない姿勢もいびつだ。それもこれも、「本を読む」ことのほんとうの楽しさを知らないから、いつまでたっても即効性を謳う本ばかりに手を出してしまうのである。本は栄養ドリンクではない。

「楽しむことのできぬ精神はひよわだ。楽しむことを許さない文化は未熟だ。詩や文学を楽しめぬところに、今の私たちの現実生活の楽しみかたの浅さも表れていると思う」と、谷川は言う。また「楽しみはもつと孤独なものであろう」とも。

恋人と、あるいは大勢の仲間といっしょに音楽を聴いたり、映画を観たりするのは楽しい。しかし、その瞬間だって、その楽しさを腹の底から感じるのはいつだってひとりの自分なのだ。

いつも誰かといっしょでないと不安で仕方がない、ひとりであるのはみじめ。だからケータイやメールで他人とつながって生きている。こうして孤独、という言葉を恐れるあまり、自分ひとりで感じることでできる力をないがしろにしたらどうなるか。「ひとりじゃられない病」にかかってしまい、いつの間にか、伸び切ったゴムのように魂は弛緩してしまいうろう。

『教養』とはつまるところ『自分ひとりでも時間をつぶせる』ということだ。それは[B]朝[B]夕にできることではない。働き蜂たちの最後の闘いは、膨大な時間との孤独な闘いである」

そう書いたのは中島らも（『固いおとうふ』双葉文庫）。「教養」という、うさんくさく実体のない言葉を、なんとなくまく表現していることだろう。「自分ひとりでもうまく時間をつぶせる」人のことを、「孤独な人」とは言わない。なぜなら、その人の時間はきわめて[C]しているからだ。私はずまるところ、「孤独」を克服し、たったひとりで自分の内面を深めるのは「読書」以外にない、と考えている。

(注) 谷川——谷川俊太郎。詩人。 中島らも——作家。
(岡崎武志『読書の腕前』)

問一 傍線部①・②・③・⑧の読み方を平仮名で書きなさい。

問二 空欄Bに入る適切な漢字を書き、四字熟語を完成させなさい。

問三 傍線部④の品詞名を書きなさい。

問四 傍線部⑤の本文中の意味を書きなさい。

問五 「A」の「浅さ」が「内容に深みがない」という意味になるように、空欄Aに入る漢字一字を本文中から抜き出して書きなさい。

問六 傍線部⑥の内容を説明した次の文の空欄に入る適切なことばを、本文中から抜き出して書きなさい。

本来、本は [] だけに価値があるわけではない。

問七 傍線部⑦のようなことが起きるのはなぜか。その理由を説明した次の文の空欄a・bに入る適切なことばを書きなさい。ただし、aは十字以内、bは本文中のことばとする。

[a] ことばかりに心を砕いて [b] を軽んじるから。

問八 空欄Cに入る適切なことばを、次のア～エから選んで、その符号を書きなさい。

ア 枯渇 イ 充実 ウ 不足 エ 増加

問九 本文について説明した次の文の空欄a・bに入る適切なことばを書きなさい。ただし、aは十字以内、bは本文中のことばとする。

「読書」は、「孤独」を克服し自分ひとりの時間を大切にすること
で、心から [a] て、 [b] のに最適の行為だと筆者は考えている。

二 次の文章は、小学校六年生の幸子が、庭木を剪定する田坂さんの仕事を眺めている場面である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。
職人がハサミをベルトにしまい、シダレモミジの枝をあちこち揺さぶり始めた。切られた枝や葉が落ちる。全体を眺め渡した。

幸子は窓を開けた。

田坂さんは脚立きだちごとゆっくりと回りながら、最後の仕上げのハサミを入れ始めた。^①いくつかの小さなパチンがあった。結局、三周して剪定を終えた。さっきまではまったく見えなかったシダレモミジの枝振りが残された。太いミキ②から小枝の先まで、いくつにも枝を分けてゆく姿に、そういう木の形だったんだねと初めて知った。田坂さんはなお眺めている。

そのとき幸子は不思議な感覚に包まれた。今までにないほど強く、はっきり来ると予感できた。

向こうのススキがかすかに揺れる…

遠きものは静かに、静かにやって来た。

風はモミジのいくつにも細く裂けた葉に、ゆっくりと触れながら流れてゆく。枝に残されたすべての葉の先端は、風を送るようにそよいでいる。木の姿全体が風になっている。気がつくとき、シダレモミジの腹の中に清流が見えた。上から眺めていると、たしかに透明なものがそと過ぎてゆく。ためいき③が出た。

^④あの職人さんは風を呼ぶ風使いではないのか。

次はハクモクレンらしい。うちで一番高い木だ。

田坂さんは長い竿さおのようなものをハクモクレンに立て掛けてから、さっきとは違う三メートルくらいある長い脚立を登り始めた。

動作が速い！

登った中ほどで、脚立に付けられた縄でハクモクレンと脚立を縛って固定した。さらに登り、また、ハクモクレンと脚立を縛った。あっ、脚立の天辺てんぺんに立った。すごい、サーカスだ！ 出初め式のハシゴ乗りみたいだ。動作はさらに速い、腰⑤にマいてあった縄を一瞬にしてほどき、自分の胴を

木に縛って固定させた。さっきの竿のようなものを取った。それを突き上げる。何をするんだろう？ 空に突き出ている一つの枝を竿で捕らえた。両腕がぐいっとなったそのとき、竿の先で捕らえられていたハクモクレンの一番上の枝がヒュッと宙を飛んだ。

「うわっ！」

幸子は A 声を出した。

うすい空の色の枝が飛んだ。幸子の視線は大きく弧を描いて地に落ちる枝にくぎづけになった。

次々に枝は飛んだ。狙いどおりに飛ばされているようだった。田坂さんの位置は大きなハクモクレンの真ん中からちよっと上だ。下から五メートルくらいの木の中心にいて、四方の枝の全てに竿の先端のハサミをとどかせている。

ヒュッと何度も空に飛ぶ枝。ハクモクレンから枝が花火のように散ってゆく。^⑥

幸子は窓枠にかぶりついて見ていた。

竿のようなものは竹みたいだ。先が傘の柄のような形をしている。それを木に引っ掛けて、手元のヒモを引くと枝が切れる。

幸子は、ほんの数分にして剪定の終わった、家で一番大きいハクモクレンを見た。高い所のヨブ⑦な枝と枯葉かれを落として、いつもより小ぢんまりと佇たぐんでいる。だけど幸子は、木の中から来年の春に花を咲かせる目に見えない力を感じた。銀色の毛をまとった冬芽が、今にもうわっと枝先から出てきそうだ。^⑧それらの強さが青い空さえ呼んでいる。

幸子は思わず手をたたいていた。すごい、すごい、すごい。

田坂さんと目が合った。笑っている。幸子も笑った。気がつくとお母さんも庭に出て笑いながら拍手をしている。すごい、すごい、すごい。

歌舞伎きの宙乗りよりすごい。

幸子の胸は空を飛んだ枝でサイコーに爽快そうきになった。

(本多明『幸子の庭』)

(注) 剪定——庭木などの樹形を整えるため、枝の一部を切り取ることを。

宙乗り——針金などを利用して身体を宙へつり上げる仕掛や演技。

問一 傍線部②・③・⑤・⑦の片仮名を漢字に改めなさい。

問二 傍線部①は何を表現しているか。適切なものを、次のア～エから選んで、その符号を書きなさい。

- ア この庭が本来持つ優雅さ イ 落下する枝や葉の軽快さ
ウ 幸子が予感した不思議さ エ 田坂さんの仕事の入念さ

問三 傍線部④の内容を説明した次の文の空欄 a・b に入る適切なことばを書きなさい。ただし、a には本文中から抜き出した三字のことばを、b にはあとのア～エから選んで、その符号を書きなさい。

田坂さんは、モミジを本来の木の **a** が姿を現すように剪定した。幸子は、そのことで **b** ようになったと感動している。

- ア 突然に吹いた風が、細く切り裂かれた葉の先端をそっと揺らす
イ 遠くから来た風が、枝全体を揺らしたことで木を大きく見せる
ウ 目に見えない風が、葉の先端まで揺らしながら枝の間を流れる
エ 予感していた風が、枝の先端から地面に向かってそっと過ぎる

問四 空欄 A に、幸子の行動が無意識であることを表す三字のことばを、本文中から抜き出して書きなさい。

問五 傍線部⑥について、

(1) 幸子は、田坂さんの仕事ぶりのどのような点に心を奪われて見ているか。解答欄のことばに合わせて十字以内で書きなさい。

(2) 剪定後のハクモクレンの姿を人にとえて表現したことを、本文中から十五字以上二十字以内で抜き出し、初めの五字を書きなさい。

問六 傍線部⑧の内容を説明した次の文の空欄 a～c に入る適切なことばを、本文中から抜き出して書きなさい。

幸子は、見事な **a** 芸で再生されていく庭の木に **b** を感じるとともに、爽快になっていく **c** のうちを表すような青い空に気づいた。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(現在の秩父市の)

武州秩父の山路を過るに、紅葉最中にて山谷錦をさらす。山川の岸に紅

(美しい織物を広げたようであった。)

葉おほく流にうつり、波を染、梢の影沈で、鮎、金魚のごとく、鯉、唐

(四十八瀬ある川のなかでも)

がらしに似たり。農夫に近付、川の名を尋ね侍れば、「四十八瀬の内、こ

こを水潜」と答ふ。我、「もみぢの水にくぐるを褒美せしゆゑいふや」と

(ためにいうのだな)

(この農夫が勢いよく、「うそをいうなよ、)

(巡礼)

いへば、田夫いきまき、「あにうそをいふべい、あれなる御堂を順礼札所

三十四番水潜と申奉る。此村の名なるべい」と高らかにいふてさりぬ。

(楓を歌に詠みに来て)

楓を詠て村里の古事をおかしくも聞しよと、楓の種を持ち来て植る。

(大田南畝「仮名世説」)

(注) 順礼札所三十四番水潜——秩父巡礼最後の寺。境内に清水のわく鍾

乳洞があり、巡礼者が清水の下を潜って身を清める慣わしがある。

問一 傍線部①を現代仮名遣いに改め、平仮名で書きなさい。

問二 傍線部②の意味がわかるよう漢字に改めなさい。

問三 傍線部③のように見える理由を現代語で答えなさい。

問四 傍線部④の本文中の意味として適切なものを、次のア～エから選んで、その符号を書きなさい。

- ア 尊敬 イ 感謝 ウ 金品 エ 賞賛

問五 傍線部⑤の主語にあたるものを本文中から抜き出して書きなさい。

問六 本文について述べた次の文の空欄に入る適切なことばを書きなさい。

風流心を出して述べた次の文の由来を考えたが、「が理由だ」という説明を聞いて、少しがっかりしたところにおもしろみがある。

四 (選択問題) A、Bから一題を選んで、解答しなさい。

A 次の詩と鑑賞文を読んで、あとの問いに答えなさい。

蝸牛の道

清岡卓行

初夏の曇った午後の庭
褐色のなめらかな 飛石のうえ。
蝸牛が ① 粘る時間を這って行く
やわらかな 二対の角を突きだして。

② ③
② ここをととも小さな蟻が 一匹
自転車に乗って ジグザグ急ぐ。
③ 薄汚れた 白っぽい 銀色の道。

雨が ポツンポツンと降ってくる。
父と幼い子に まぼろし遊びをさせた
はかない銀の細道は やがて消える。
蝸牛も どこかへ行方不明。
いや 高苔の大きな葉のうえで
おいしそうな 遅い昼めし。

(注) 高苔——レタスの和名

(鑑賞文) 作者と幼い子は、

庭で蝸牛を見つけた。その這って行く様子を眺めるうち興味は次第に a に移っていく。そこで繰り広げられた空想世界は突然の雨により新たな場面へ変わっていく。

作者は、父と子のほのぼのとした心のふれあいを b 的な表現でのびやかに描いている。束の間の貴重な時間をいとおしむ父の切実な気持ちが生分に伝わってくる。

問一 傍線部①は、何をたとえたものか。解答欄のことにば合わせて、四字で書きなさい。
問二 空欄aに入る適切なことばを、詩の中から四字で抜き出して書きなさい。

問三 傍線部③は、詩の中でどのように表現されているか。六字で抜き出して書きなさい。

問四 傍線部②は、蟻のどのような様子を見立てたものか。適切なもの次のア～エから選んで、その符号を書きなさい。

問五 空欄bに入る適切なことばを、次のア～エから選んで、その符号を書きなさい。

- ア 抽象
- イ 民話
- ウ 論理
- エ 童画

B 次の漢詩と解説文を読んで、あとの問いに答えなさい。

建徳江に宿る

孟浩然

a 煙渚に泊す

① 日暮 客愁新たなり

野曠くして 天は樹に低れ

江清くして 月は人に近し

(注) 曠く——広くて何も無い

宿 建徳江

孟浩然

② 移舟泊煙渚

日暮客愁新

野曠天低樹

江清月近人

(解説文) この詩は、作者が、もやのたちこめる岸辺に停泊したときの様子を詠んでいる。後半二句の「野原は広々とし、空は木々を b ように低く下がっている。清らかな水をたたえた川が流れ、月は手に取るほど近くにあるように見える」という大自然の情景描写から、作者の c 気持ちがあががえる。

問一 傍線部①の「客」と同じ意味で用いられる漢字を次のア～エから選んで、その符号を書きなさい。
ア 冬 イ 風 ウ 旅 エ 憂

問二 空欄aに入るように、傍線部②を書き下し文に直しなさい。

問三 傍線部③の意味をもつことばを漢詩の中から抜き出して書きなさい。
問四 空欄bに入る適切なことばを、次のア～エから選んで、その符号を書きなさい。

問五 空欄cに入る適切なことばを、次のア～エから選んで、その符号を書きなさい。

- ア 濡らす
- イ 押し潰す
- ウ 枯らす
- エ 包みこむ
- ア 寂しく心もとない
- イ 明るく晴れやかな
- ウ 楽しく名残惜しい
- エ つらく投げやりな

